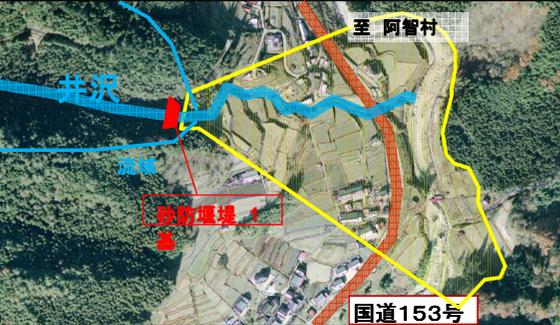


(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

| | | | | | | |
|---------------------|---|---|------------|------------|------------------------|---|
| 事業名 | 防災・安全交付金(通常砂防)事業 | | 路河川名等 | (砂)井沢(いざわ) | | |
| 事業毎の通番 | 5 | 市町村名 | 根羽村 | 箇所名(ふりがな) | 中野(なかの) | |
| 事業目的 | 本溪流は根羽村の中心部に位置し、地質は花崗岩から成る流域面積0.4km ² の土石流危険渓流 I である。河床勾配が約1/10と非常に急峻で、平成12年には豪雨に伴う出水で下流人家に被害が出ている。上流にはいまだ不安定な土塊および多数の倒木が存在しているため、今後の降雨で直下に存在する人家9軒および、国道153号に被害のおそれがある。 | | | | | |
| しあわせ信州創造プランにおける位置付け | 4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備) | | 事業実施の根拠法令等 | 砂防法 | | |
| 関連する事業、計画等 | なし | | | | | |
| 保全対象・範囲 受益対象・範囲 | 人家9戸、(国)153号(県の地域防災計画における緊急輸送路) | | | | | |
| 着手年度 | 平成30年度 | 事業期間 | 6年間 | 事業費(千円) | 財源内訳(千円) | |
| 完成年度(見込み) | 平成35年度 | 費用対効果 | 3.4 | | 国庫 其他 県債 一般財源 | |
| 全体事業内容(主な工種) | 砂防堰堤工 1基 | | | 400,000 | 200,000 180,000 20,000 | |
| 事業効果 | 直接的効果(定量的・定性的) | 人家9戸、国道の保全が図られる | | | | |
| | 間接的効果(定量的・定性的) | 県の緊急輸送路である国道を保全することで、災害時の輸送が確保される(地域間交流の促進) | | | | |
| 評価の視点 | 必要性 | ○人家戸数:9戸 ○公共施設数:1次緊急輸送路((国)153号) ○要配慮者利用施設の有無:なし ○避難場所、避難路の有無:あり(避難場所:新町集会所、避難路:(国)153号) | | | 評価 | B |
| | 重要性 | ○過去の災害履歴:災害履歴有(H12年土石流災害) ○交通遮断による地域経済への影響:大((国)153号(迂回路なし)) ○地域防災計画上の位置づけ:あり((国)153号(長野県地域防災計画及び根羽村地域防災計画)) | | | 評価 | A |
| | 効率性 | ○費用対効果(B/C):3.4 ○事業期間:5年 ○工法等の比較検討:検討あり ○流域の総合調整:調整済 | | | 評価 | A |
| | 緊急性 | ○流域の地形・地質:地質が脆弱(風化花崗岩) ○流域の植生:倒木が多数 ○平均河床勾配:平均勾配10° ○土砂整備率:1% ○土砂災害防止法の指定区域:警戒区域 | | | 評価 | A |
| | 計画熟度 | ○事業情報の共有:関係者を中心に周知(合同調査の実施(平成28年9月16日)) ○地域の取り組み:協力的である(H28年度地元要望あり(平成28年9月16日)) ○地域の合意形成:合意形成が図られている(H12年の災害を契機として地元要望は多い) ○住民との協働:住民参加型の事業(警戒区域の指定により避難体制が整備されている) | | | 評価 | A |
| | 部局意見 | 当該溪流の保全対象には重要な交通網である国道153号があるため、速やかな土砂災害対策が必要である。 | 採択状況 | ○ A | | |
| 技術管理室意見 | 部局の意見を適当と認める。 | | | | | |

| | | |
|----------|---|---|
| 事業概要説明図表 | 【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので) | |
| | (どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。) | |
| 事業概要説明図表 | 【位置図】 | 【平面図(航空写真)】 |
| |  |  |
| 事業周辺環境 | 【荒廃状況と保全対象】 |  |
| | ①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景 | 井沢は、土石流危険渓流であり、想定氾濫区域には人家9戸および1次緊急輸送路である国道153号、が存在する。平成12年に出水が発生し人家に近い渓流には渓流保全工が整備されているが、いまだ上流域には流木を始めとした不安定な土砂が堆積しており、再度土石流による被害の発生のおそれが高いため、砂防堰堤を計画し、民生の安定を図るものである。 |
| | ②地域からの要望経緯及び地域の関わり | 平成12年に出水が発生したことから、H26年に土砂災害防止法に掛かる説明会及び、毎年の要望時に地元から新規事業化の要望を受けている。 |
| | ③事業説明等の経緯 | H26年に土砂災害防止法に掛かる説明会において、事業化の可能性があることを説明している。 |
| | ④他事業・プロジェクトとの整合、関連 | 迂回路無しであり緊急輸送路である国道153号の安全が確保されることにより、総合5か年計画における都市農村交流人口の増加に寄与する。 |
| | ⑤自然環境・生活環境への影響と配慮 | 砂防堰堤が整備されることにより、安心安全な生活環境に寄与する。 |
| | ⑥地域活性化への影響と配慮 | 土石流対策施設の設置により緊急輸送路である国道153号の安全が図られ、地域防災力の向上に寄与する。 |
| ⑦その他 | | 事業代表地点の緯度経度 北緯:N 137° 35' 13.54" 東経:E 35° 16' 3.21" |